

## 研究実績書

研究テーマ	文久期から慶応期における広沢真臣の政治動向と思想
研究の成果  (研究報告書(論文等)の要約・要点を簡潔にまとめて記入すること。)	<p>本研究は、これまで顧みられることのなかった幕末期（特に文久期から慶応期）における長州藩士広沢真臣の政治動向と思想を追究するものである。今回は、3つの課題・視点から広沢真臣の役割を考察した。</p> <p>1点目は、広沢の「攘夷」に対する認識と動向に照射して論じた。広沢は、日本と長州藩の「面目」を大事として、「尊攘ノ大義」を貫くことを訴えたが、「攘夷」は不可能となり、広沢自身が後始末をすることになる。2点目は、広沢の長州復権問題に対する認識と動向に照射して論じた。広沢は、長州藩のリーダーの一人として「待敵」体制の構築を図り、幕長戦争の休戦交渉では、徳川慶喜によって長州復権が果たされるであろうという言質を勝海舟から得た。3点目は、広沢の薩長同盟・王政復古に対する認識と動向に照射して論じた。広沢自身が薩摩藩を信頼し、長州復権・王政復古を目指していくうえで「薩長同盟」は大きな後ろ盾であった。また、一貫して「一会桑」を打倒対象とし、薩長両藩の挙兵によって迅速に新政体樹立（王政復古）を成し遂げようとした。その他、広沢が「討幕」を志向していたのかという点についても検討を行い、関連する事項を考察した。</p>